



生物多様性とは

生物多様性とは

- [生物多様性とは](#)
- [パンフレット](#)
- [こどものページ](#)
- [PR映像](#)

[トップページ](#) > [生物多様性とは](#)



生物多様性とは

- ▼ [生物多様性とは](#)
- ▼ [生物多様性からの恵み](#)
- ▼ [生物多様性の現状](#)
- ▼ [私達にできること](#)

生物多様性とは

「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物が過去から未来へと伝える遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

この地球上には、知られているだけで約175万種、未知のものを含めると3,000万種とも言われる生物が暮らしています。これを「種の多様性(=いろいろな生き物がいること)」と言います。

また、地球上には、天然林や人工林などの森林、湿原、河川、サンゴ礁など、さまざまな環境があります。すべての生き物は、約40億年もの進化の過程でこれらの環境に適応することで、多様に分化したのです。この「生態系の多様性(=さまざまな環境があること)」も、生物多様性の一面です。

さらに、様々な環境変化に対応するためには、乾燥に強い個体、暑さに強い個体、病気に強い個体など、さまざまな個性をもつ個体が存在する必要があります。そのため、同じ種であっても個体間で、また、生息する地域によって体の形や行動などの特徴に少しずつ違いがあります。この「遺伝子の多様性(=それぞれの種の中でも個体差があること)」は意外と忘れられがちですが、大切な生物多様性の一面です。

つまり、数え切れないほどの生物種がそれぞれの環境に応じた相互の関係を築きながら多様な生態系を形成する、この多様な生物の世界を総称して「生物多様性」と言います。

また、生物多様性とは、現在多様な生物が存在しているということだけではなく、今後の生物の進化や絶滅という時間軸上の変化も含む概念です。ですから、現在の生物の多様性をそのまま維持するだけでなく、競争や共生など生物同士の自然な相互関係により、自由に進化・絶滅していくダイナミズムが確保されてこそ、生物多様性の保全につながるのです。

地域固有の歴史が育んだ生物がそれぞれにふさわしい環境で生き続け、健全な生態系が持続するように、人間の活動を自然に調和させることが重要だと言えます。

生物多様性からの恵み

私たちは生物多様性からの恵みに支えられて生きています。たとえば、食べ物、紙や建材、衣服や医薬品。さらに、私たちが生きるために必要な酸素は植物などによって作られ、汚れた水も微生物などによって浄化されています。生物多様性は、私たちの生活になくてはならないものなのです。

国連の呼びかけで2001年に発足した生態系に関する世界的な調査「ミレニアム生態系評価(MA: Millennium Ecosystem Assessment)」では、生態系に由来する人類の利益となる(幸せな暮らしに欠かせない)機能(生態系サービス)を大きく4つに分類しています。

維持的サービス

生態系サービスの内すべての基盤となるもので、水や栄養の循環、土壌の形成・保持など、人間を含むすべての生物種が存在するための環境を形成し、維持するものです。

調節的サービス

汚染や気候変動、害虫の急激な発生などの変化を緩和し、災害の被害を小さくするなど、人間社会に対する影響を緩和する効果を指しています。

供給的サービス

食料や繊維、木材、医薬品など、私たち人間が衣食住のために生態系から得ている様々な恵みを指します。

文化的サービス

生態系がもたらす、文化や精神の面での生活の豊かさを指します。レクリエーションの機会の提供、美的な楽しみや精神的な充足を与えるものです。

エネルギーや物質の循環を支えるという物理的な側面から精神や地域固有の文化に至るまで、私たちは生活の隅々に生態系からの恩恵を受けていることがわかります。

生物多様性の現状

「ミレニアム生態系評価」によると、現在、これまでのおよそ1,000倍の速度で生物が絶滅していると言われています。

また、IUCN(国際自然保護連合)がまとめた2010年版の「レッドリスト」には、絶滅のおそれの高い種として9,618種の動物や8,733種の植物がリストアップされています。日本においても、2006～2007年に公表された環境省版レッドリストに3,155種が絶滅のおそれのある種として掲載されています。

こうした生物種の減少の原因のほとんどが、開発や乱獲、外来種の持ち込みなど人間の活動にあると言われています。このままでは、生物多様性に支えられている私たち人間の暮らしにも影響を及ぼしかねません。

私たちの生活に必要な生き物でなければ別にいい、と思われる方もいるかもしれませんが、すべての生き物はつながりあって生きており、思わぬところで私たちの生活に影響を与えるかもしれないのです。

私達にできること

生物多様性を守るため、私たちが日々の暮らしの中でできることはたくさんあります。

たとえば、一人ひとりが身近な自然を大切にすることです。都市に住んでいると、自然が身近だとは感じないかもしれませんが、しかし、気をつけて見てみると、私たちの周りにもさまざまな生き物が生息していることが分かります。これらの生き物がずっと住み続けられるよう、身近な自然を保全・再生していかななくてはなりません。

また、環境に配慮した生活をすることも大切です。私たちの生活は生物多様性の恵みに依存しています。特に、食糧をはじめ多くの資源を外国から輸入している日本は、世界の生物多様性を利用していることとなります。この恵みを将来にわたって受け続けられるように配慮することが求められているのです。

庭で植物を育てる、ペットを最後まで責任を持って飼う、地元の旬の食材・環境に配慮した製品を選ぶ、省エネ・省資源に取り組むなど、まずは、簡単にできることから始めてみませんか？

● もっと知りたい方へ

リンクは全て外部リンクです

- ▶ [環境省「生物多様性ホーム」](#)
- ▶ [EICネット](#)
- ▶ [環境省中部地方環境事務所「生物多様性条約第10回締約国会議\(COP10\)に向けて」](#)
- ▶ [外務省「わかる！国際情勢Vol.46」](#)
- ▶ [ドイツ連邦環境・自然保護・原子炉安全省「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」](#)

当委員会アドバイザー香坂先生のコラム

- ▶ [EICネット「ライブラリ：EICピックアップ」](#)
- ▶ [中日新聞環境net「What's COP 10？」](#)

生物多様性条約事務局の作成した侵略的外来種の啓発冊子

生物多様性条約事務局の作成した[侵略的外来種の啓発冊子\(日本語版製作：近畿大学\)](#)(PDF形式 863KB)(別ウィンドウで開きます。)をこちらからご覧になれます。

なお、この冊子についてのお問合せは、国連環境計画/生物多様性条約事務局 プログラムオフィサー(侵略的外来種プログラム担当)志村様(メールアドレス:junko.shimura@cbd.int)までお願いいたします。

(冊子の訳の一部に誤りがありました。神戸大学農学研究科 昆虫機能学研究室 前藤薫教授のご指摘をいただき、15ページ「トビムシ」の訳を「ハムシ」に修正いたしました。)

